



特集 地域の自立
菅福元気邑

気の合う仲間が集う元気な場所

地域の特性と趣味を生かして炭づくり

自分たち できるところから

昨年12月から本格的に始まった炭づくり。

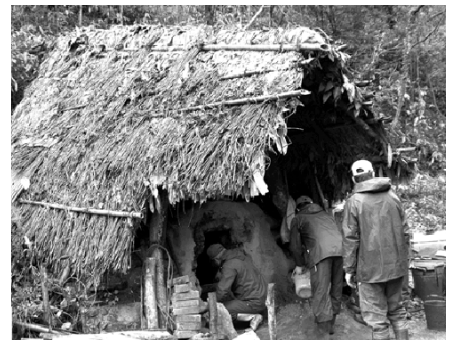
窯や作業小屋もすべて自分たちの手で作りました。

「まず、自分たちで、できることから始めればよい。それが地域の活性につながるれば」と、地域の特性を生かして、ジゲおこしを指す菅福地区の9人。

冗談や楽しい話に笑い声が静かな山々に響きわたる。

休憩時間には、囲炉裏を囲み楽しい時間を過ごす。これが元気の源。本格的な炭づくりに元気を出す人々を紹介します。

里山ものづくり塾 炭づくり



本格的な窯。すべてが手づくり

気の合った仲間たち

地域の特性を生かす

菅福地区では「地域の中で自分たちにできることから情報発信し、地域を活性化しよう」と、昨年10月に里山ものづくり塾を結成。地域の特性を生かした物づくりに励んでいる人たちがいます。

メンバーは、同地区の60歳以上の9人で、気の合った仲間たち。福長地区に窯^{かま}を作り、主に炭焼きづくりに挑戦しています。

昨年の12月から

炭づくりを始める

炭づくりは昨年の12月から本格的に開始。木炭や竹炭を作っています。

竹炭は、特に湿気取りなど



美しいつやの竹炭

に優れていて、畳の下に敷くといったことで、注文も多く入っています。

実際に、家に敷いた同塾のメンバー水谷勉さん（上菅）は「畳が変わったかのように気持ちがいい」とその効果を絶賛。注文先でも好評で、松江市からも注文が入っています。

それぞれが特技

自分たちの手づくり

同塾のメンバーは、それぞれが特技を持つ人ばかり。炭焼き窯や作業小屋も全部自分たちの手づくりです。

窯は、以前に作ったことがある稲田茂さん（上菅）指導のもと幅1^m60^{cm}、高さ1^m50^{cm}、奥行き3^mの立派ものを約1か月かけて作りました。塾長の西村文作さん（福長）